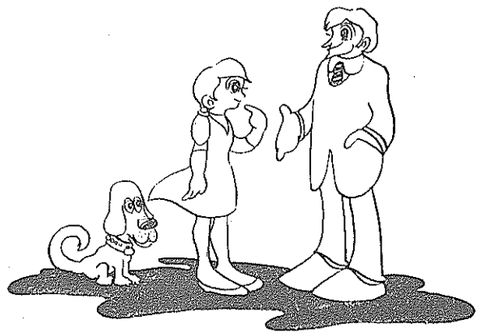
一世帯に100枚を無料で

4月からゴミ袋を無償配布



物価狂乱の暗い世の中に、台所に直結した明るい行政の手を――。

杉本市長は、この四月からゴミ袋の無償配布に踏みきった。一週間に二回ゴミを出すとして一世帯あたり年間百枚。これを年四回にわけて二十五枚ずつが配られる。この経費約四千三百万円。市民の協力で〝チリ一つない町〟づくりができれば安いものといえよう。住民自治への一つの布石ではある。

四千三百万円で 年四回に分けて

花子＝にいちゃん、杉本市長さんがいっていたゴミ袋の無料化が、この四月から行なわれることになったって――。

太郎＝うん、そうだよ。三月市議会は杉本市長さんの初めての議会でね。はじめは議員さんの中にもタダはいけない、という意見もあったそうだけど――。

ポチ＝そうだとも、上倉の百四十一世帯や農家の人は自分の家で処理しているのだ。

太郎＝市長さんは、物価狂乱の暗い世の中なのでなにか明るいものをやりたかったんだな。台所に直結したもので、一部の人にかえすより市民のみんなにかえして喜んでもらえるものを――。そこでゴミ袋が一番いいということになったのさ。

花子＝ゴミ袋の無料化は他の市でもやっているの。

太郎＝高知県ではもちろん南国市のようだね。全国的に見ても一部のようだけど。

花子＝環境衛生や町を美しくする運動も口先だけでなく形として実施したのは高く評価されるわね。

ポチ＝でも、四千二百九十万もお金があったら保育所の一つも建つんじゃないか。

太郎＝市長さんが公約したとき、ゴミ袋は十三円。このうち十円を市民が負担し、残りの三円を市が負担していたんだ。これをただにすると約千七百万でいけたわけだよ。ところがね、物価高騰、モノ不足、便乗値上げと狂乱のなかでことし一月からは一枚三十三円に急上昇。今までどおり市民に十円負担をしてもらっても残りの二十三円分で約三千万円を市が負担しないといけなくなってたんだ。まだ高騰するおそれもあるしね。また国の公共事業の繰り延べ、総需用の抑制や建築資材の高騰などで建築事業はお手あげなんだ。

まず……廃棄物処理申請を

花子＝本当に、狂乱というのがぴったりの感じね。あたたかい市長さんの配慮が市民にわかってもらえるといいのにね。タダだからといって、なにもかも入れたりしてかえってゴミがふえたり、町がきたなくなるのが心配だわ。

太郎＝ゴミ袋は、一世帯に年間百枚配られるんだ。もらえる人は南国市に住んでいて住民基本台帳に登録されている世帯で「廃棄物処理申請書」を市に出している世帯。

ポチ＝住民基本台帳に登録してない人はどうしていけないの。

太郎＝やっぱり、南国市の市民だから登録もして税金もはらって――。ただもらうときは市民で税金を納めるのはいやだ、なんてのは困るんだよ。

花子＝一世帯に百枚というのは――。

太郎＝ゴミは一週間に二回集めているだろう。二回とも出すとしたら一年間で約百枚いるわけよ。そこで、年四回にわけて三ヵ月ごとに二十五枚を地区の衛生委員さんを通じて渡すことにしているんだ。

ポチ＝一人の世帯でも八人の世帯でも年間百枚というのは不公平だぞ。

太郎＝世帯の人数によって枚数をかえれば一番いいんだがね。だけど人数の移動は大変多いんだ。四十八年中に出生、死亡や転入、転出などをした人は六千九百三十三人。世帯の移動は千九百九十六世帯もあるのだよ。そのたびにゴミ袋の枚数をかえていたら市役所もマヒしてしまうもんね。

週二回収集で 年間約百枚

花子＝新しく南国市に転入してきた家庭にはどんなにするの。

太郎＝転入したときは市役所の市民課または各支所に転入の届をするだろう。そのときに次の配付の日（年四回＝四月、七月、十月、一月）までの端数を渡すことになるのさ。

花子＝ゴミ袋はかなり大きいけどどのくらい入るのかな。

太郎＝防水加工したもので容積三十㍑、重量にして十㌔は入るよ。農家などである程度は自家処理できるところと、町の中で全部袋に入れるところではちがってくるが、普通四人から五人の家族を対象にしてつくっているんだ。節約や包装をしない運動などで社会の情勢も変ってきているけどね。

ポチ＝一年間に百枚でたりない世帯はどうしてくれるのだ。

太郎＝おこったようにいうなよ。一回に二袋いるような特別な人には気の毒だけどたりない分は業者から買ってもらうことになるんだ。

花子＝反対に、少なくてゴミ袋のあまる人もあるでしょう。それを全部集めておいて他の市町村に持っていって売ったり――。

太郎＝そこまで市民を信用してなかったら行政なんてできないよ。市民みんなの税金で市政をやっているんだから。そのことをこの機会にみんなで考えなくちゃあね。

ポチ＝そのとおり。いいこというじゃない。だけど仮りにそんなときどうするの。

目的外の使用 転売しないで

太郎＝市役所でもパトロールをしたり係員や衛生委員さんが指導にあたるようにしているがね。公害環境課では「ゴミ袋として使用する以外の目的で使用したり、他に転売、譲渡したりしてはいけない。これに違反すると無償配付をとりやめる」といってるよ。

花子＝うわ――ッ、おっかない。だけどそんなことはあってほしくないわ。ゴミ袋には市のマークも入っているでしょう。うたがえばきりがないけど、私たちも市民の一人だから良心的に協力したいわ。

ポチ＝協力することといえばほかにもあるぞ。自分のうちで処理できるものや農家の人などで自給の肥料として利用できるものなど、協力していきたいな。

太郎＝待望のゴミ焼却場の完成も六月末になりそうだし、そうでなくてもゴミ収集が混乱したら大変だね。やっぱりはじめのうちはゴミを出すのが多くなるのは仕方ないとしても――。

ポチ＝市街地を通った川の下流はゴミが多いぞ。お百姓さんは自分たちで田役賃を出しあって自分たちで川ざらえもしているしな。

花子＝不法投棄がなくなり、日本一きれいな南国市になれば四千二百九十万円なんて安いもんじゃないの。川にゴミをすてないように指導もしてほしいわ。

衛生委員さん ご苦労さん

花子＝地区の衛生委員さんにはずいぶんご苦労をかけることになるね。

太郎＝市でもそのことを心配しているね。これまでは毎週土曜日に市民の希望によって衛生委員さんがゴミ袋を渡していたんだ。これでは大変だし、今度は一年間に四回渡すことになったから手間も少なくなったよ。それにタダだからお金の取り扱いもなくなるしね。ゴミ袋の配付だけでなく、環境衛生や保健衛生などのご意見を聞く目的もあって、こんど報酬を増額にしたんだ。

台所に直結した 無料化の意義

ポチ＝増額したのはいいが、それにしても少ない報酬だな。

太郎＝うん、市の方も市民や市民組織にはいろいろお世話になってるな。衛生委員さんには、このほか、ゴミ袋一枚につき一円の取り扱い手数料を出すそうだよ。この額だけでも一年間に百三十万円になるんだ。

花子＝なにか新しい事業をするとなると、ずいぶんお金もいるものね。

太郎＝そうなんだ。市民と直結した、市民の生活に本当に関係のあるものをするとき、国や県の補助金のないのがおかしいくらいだね。

ポチ＝こんどの議会でも補助金の超過負担や交付税など税源の配分について議論したそうだぞ。

良心的な 市民の努力を

太郎＝うん。だけどその問題はまた話し合うことにして――。ゴミ袋の無料化には市民の人たちにもいろいろの意見があるだろうな。みんなの意見をよく聞き、みんなで話し合ってよりよい方法をみつけるとともに、美しい町づくりのためにみんなで力をあわせてがんばりたいもんだね。

ポチ＝そうだ、そうだ。

花子＝聴く市政、話す市政、そしてそれに応える市政が市長さんの基本姿勢ですが、市民もかしこい市民にならなきゃあね。市長さんがやってくれる。議員さんにおまかせ。ということでなく、私たちの町の未来像や美しい町づくりはやっぱり私たち市民が話し合ってよりよい方法を考えなくっちゃね。

太郎＝うん、みんなでがんばろう。

（注＝この会話は、三月市議会などの質疑応答をもとに編集したものです）